

PAPER LOGOS



www.
logos.ne.jp

旅、人、アウトドア。



特集

サンライズ
／
サンセット

2022
VOL.

10

父島・母島 (東京都小笠原村) / 24時間の船旅で扇浦海岸のサンセットを / 右も左もボニ
トレッキングをナメてはいけない / 小笠原諸島は国産コーヒーはじまりの地 / 僕が羊を数え
ダイ、の島寿司、超絶美味! / ボビーさんとサンセットカヤック / 島の家族と持ち寄りBBQ
ホタルイカの素焼き / ホタルイカの炊き込みごはん / ホタルイカの酢味噌和え / ホタルイカの天
省 / 渡良瀬遊水地 / 気球でサンライズ体験 / 栃木県宇都宮市 / LOGOSはじめてのレシ
ス・バスク流 / 「ミックスキノコキッシュ」 / 「骨付き子羊の薫製オープン焼き」 / LOGOS PARK
四国最南端の足摺岬展望台 / 農業には太陽だけでなく月も大切と知る / 師いわく「はじまり
灯す / 周防大島 (山口県) / 新連載の理由は編集長が島が好きで2拠点での活動を検討中
恩師に「俺と一緒に人生最後の仕事をしてみねえか?」と聞かれたらなんと答えますか?
する / コミュニケーションについて考えさせられた夜 / 周防大島にはハメハメハ大王のよう
ンブルーな海を眺めながらジョンビーチまでのトレッキング / だがしかし、ジョンビーチへの
て眠りに落ちた頃、ウミガメは愛しき我が子を産んでいた / 虎党漁師・森さん特製`オナガ
 / 父島のフラダンス発表会 / イルカは見るのではなく`会う、らしい / 富山県富山湾 / ホタ
ぶら / 富山県八戸津浜 / ホタルイカの身投げウォッチング / 富山県新湊 / 約20年ぶりの帰
ブック『外ごはん本』からKAMADO料理担当・石川さん再登場 / なんでもやるのがフラン
&足摺・四万十川 (高知県) / 再会! 仁淀川の大家族 (11人中5人だけど) / サンライズ!
は朝日のように、終りは夕日のように / 四万十川の蛍は積極的? 屋形舟にも飛び入りで光を
だから? / 元銀杏BOYZの中村明珍さんは農家にして僧侶にして考える人だった / あなたは
 / 周防大島には (もしも怪獣だったら?) と妄想しながらおいしい野菜を育てる人が実在
な漁師も実在する / ハメハメハ大王のような漁師さんの食材による採れたて新鮮海鮮BBQ

trip + people + outdoor = PAPER LOGOS

特集

サンライズ／

サンセット

004 父島・母島

― 東京都小笠原村

045 気球でサンライズ体験

― 栃木県

068 LOGOS PARKと

足摺・四万十川

― 高知県

035 ホタルイカと
BBQと僕の故郷。

050 栃木の森で、外ごはん。

081 連載 島と言葉

01 周防大島 山口県

106 PAPER 10
アイテムカタログ

たき火百景

042 冬の只見線

066 蔵王の樹氷

080 三十穂の水柱



父島のジョンビーチにて。

太陽といっしょ。

お待たせしました。PAPER LOGOS、3年ぶりの最新号です。
ちよびりサイズを大きくして、連載企画も増えちゃったりなんかして。
合言葉は「旅、人、アウトドア」。

こちらの言葉もリニューアルしてみましたが、振り返れば、
この旅というやつが難しい2年間でもありました。

「あなたにとっての不要不急ってなに？」という難題を、

世の中のありとあらゆる人が自問自答させられた時期だったからです。

僕自身は、いまだに明確な答えがみつかっていませんが、

背中を押してもらえる言葉とは出会えています。

稀代の表現者が、我慢の時を経て開催した単独ライブで、

来場者への感謝とともに告げた言葉でした。

「すべての娯楽は生きる力です」

生きる「糧」じゃなくて、生きる「力」ということ。

その人の表現ジャンルに絞ってもいいはずなのに、すべての娯楽は、と言ってくれていること。

励まされ、唇を噛みました。

そうだ、旅に出よう。太陽といっしょだ。

あの名コピーを丸パクしつつ心に浮かんだのは、僕が読者に届けたい娯楽でした。

「サンライズ／サンセット」。

太陽を追いかけてながら、

魅力的な人やアウトドアの名場面と出会えるかもしれない旅にしよう。

お待たせしました。

PAPER LOGOS最新号は、太陽といっしょの旅から始まります。

編集長 唐澤和也

特集

サンライズ

サンセット

父島・母島

小笠原諸島

撮影・関暁 取材・文唐澤和也 取材日・6月17日・28日



はじめての 父島へ。

東京竹芝の港から「おがさわら丸」で24時間。
船の上でのサンライズに続いて、偶然のサンセットから父島の旅は始まりました。
偶然と書いて「できすぎ」と読んでもいいのかもしれない。
レンタカー屋さんのスタッフが教えてくれた扇浦海岸へと行ってみると、
偶然にも、フランスで誕生日を祝う人たちに出会えたのです。



携帯アプリいわく

「（この日の
上り下りは）132階（ふだんは
平均8階）」！

小港海岸からの歩きはじめから中山峠までの最初の30分ほどが激キツ。
「玉のような汗」が、どのような汗かを人生ではじめて実感する。



John Beach!



小笠原諸島は2011年に世界自然遺産に登録された。固有種が多く、環境を守るためにキャンプは禁止だ。そこで、チェアリングをEnjoyしようとジョンビーチを目指すも、その道中がハード。片道約2時間半。「ポニンプルー」と呼ばれる小笠原諸島特有の濃くて澄んだ海の色を眺められるのは救いだったが、汗がとまることはなかった。

注：ジョンビーチへのトレッキングをナメてはいけません。

国産コーヒーはじまりの地。

育てて焙煎して淹れる人・

宮川雄介さん。

(USK Coffee)



名古屋でコーヒーの焙煎をしていた宮川さん。コーヒー好きが高じて「豆から育てたくなって」20年ほど前に移住。父島を目指したのは国産コーヒーのはじまりの地が小笠原諸島だったと知ったから。撮影させてもらったコーヒー畑に併設してカフェもあり。皮をつけたまま乾燥させることでフルーティな味わいなのが特徴だ。https://uskcoffee.com。



小笠原諸島は日本最大のアオウミガメの繁殖海域。母ガメを驚かさぬようフラッシュは禁止、赤いライトで照らして静かにウォッチングを。

僕が羊を数えて眠りに落ちた頃、
ウミガメは愛しき我が子を産んでいた。



人工的な灯りの影響を
受けないために星空も絶景。
あまりにも見える星が多すぎて
素人にはなんの星だかわからないが、
南十字星が見えることも。

母島へ。

父島から「はしま丸」で約2時間。
父島同様に世界自然遺産で、
パッションフルーツの産地として有名で、
人口は約450人の小さな島。
ゆえに！ 23区のほうの東京の感覚でいると、
お昼ごはんを食べ逃すなんてことも。
どうする、事前リサーチなし
完全アドリブ旅の編集部よ？
大丈夫。
偶然の出会いが救ってくれたのです。



母島に移住して1年半。
次が決まりました。
フラメンコを習いに
スペインのセビリアへ行きます。



近江凱斗さんと蓬萊根にて。
母島での移動は
原付バイクだったのだが、
都道最南端の
「南崎ロータリー」から徒歩&游泳で
この美しいビーチに。